

か かん けん 河環研だより



ウシモツゴ

環境省レッドリスト 絶滅危惧 IA 類
岐阜県レッドリスト 絶滅危惧 I 類

- 1 所長あいさつ
- 2 「馬瀬川フィッシングアカデミー」で講演
- 3 「エドワジエラ・イクタルリ感染症」について
- 4 「ウシモツゴ親魚交換会」に出席

1 所長 あいさつ

岐阜県は、昔から「飛山濃水」といわれるように飛騨地方には、三千メートルを超える美しい山々が連なる一方、美濃地方には豊かな水環境に恵まれた木曾三川など変化に富んだ自然環境があり、そこに生きている動植物から、私たちは様々な恩恵を受けています。豊かな水環境は、特に全国的にも珍しいウシモツゴ、ネコギギ、アジメドジョウなどの希少な淡水魚や県の魚でもある「アユ」をはじめとしたアマゴ、カジカ、サツキマスなどの多くの水産資源をもたらしています。

当研究所では、貴重な財産である豊かな水域環境や水産資源を次世代に引き継ぐために、「人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興」を基本目標として掲げ、水域環境保全に関する調査研究と水産業(河川漁業、養殖業)の振興に関する調査研究に取り組んでいます。水域環境保全に関する調査研究としては、希少水生生物の保護・繁殖、外来魚の駆除技術の開発、水生生物の生息に適した環境の創出などがあります。また、水産業の振興に関する研究としては、アユやマス類を中心とした資源の増殖手法の開発、バイオ技術等を活用した有用品種の作出、岐阜県独自のブランド化を目指した新魚種の養殖技術の開発、魚病対策などがあります。当研究所は、平野地から山間地まで変化に富んだ水域環境に対応するため、美濃地方の各務原市にある本所の他に飛騨地方の下呂市に支所を配しています。本所ではウシモツゴなどの温水性の希少魚やアユを、支所では冷水性のアマゴ、カジカなどを対象にした調査研究を行っています。

調査研究から得られた成果は、水域環境の保全活動への貢献、県民皆様との協働による希少魚の保全活動、環境教育活動、水産関係の方々への技術提供、養魚指導、魚病診断などを通して、市民活動や水産業の支援に役立っています。また、“皆さんの身近な研究所、開かれた研究所”を目指し、施設見学、ホームページの開設、研究成果発表会、研究所一日開放などに取り組んでいます。

県民の皆さんからの水域環境や水産業の技術的な質問、忌憚のないご意見、ご指導は、当研究所の業務の大きな力になりますので、よろしくお願いいたします。

平成21年5月

岐阜県河川環境研究所長 佐伯秀紀

2 「馬瀬川フィッシングアカデミー」で講演

5月9・10日に下呂市馬瀬のフィッシングセンター水辺の館において、「馬瀬川フィッシングアカデミー テンカラ釣り講座」が開催されました。この講座は、NPO法人馬瀬川プロデュースにより毎年実施されている釣り教室で、県内だけでなく、首都圏や大阪府から20名の参加者がありました。9日の座学では、当研究所の職員が講演を担当し、アマゴなど渓流魚の生態や増殖の方法について解説しました。

(下呂支所 徳原哲也・岸 大弼)



3 「エドワジエラ・イクタルリ 感染症」について

エドワジエラ・イクタルリは、アメリカナマズなどナマズ類の疾病として、世界的に広く蔓延している細菌感染症の原因菌です。このエドワジエラ・イクタルリが、平成19年8月から10月にかけて、東京都、広島県、山口県の天然アユにおいて国内で初めて確認されました。平成20年には3都県以外の県からも、エドワジエラ・イクタルリが確認され、岐阜県内においても8月と9月にそれぞれ別の河川で採捕されたアユから菌が確認されました。感染アユは、外観的特徴をあまり示しませんが、個体によっては腹水の貯留により腹部が異常に膨らんでいる場合があります。また、本病は高水温期(水温20以上)に発生しやすいと言われており、特に夏季は発生の監視を強める必要があると考えています。エドワジエラ・イクタルリ感染症に関する情報や疑問、質問等がありましたら、当研究所までお問い合わせ下さい。

(本所 資源増殖部 景山 哲史)



エドワジエラ・イクタルリが感染したアユ。腹水の貯留により腹部膨満を呈している。

4 「ウシモツゴ親魚交換会」に出席



当研究所から関市への親魚譲渡

絶滅のおそれがあるウシモツゴの保全を目的とした4回目の親魚交換会が4月27日、各務原市の岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふで行われました。交換会には「ウシモツゴを守る会」の関係者約70名が参加し約900尾のウシモツゴを交換しました。この「ウシモツゴを守る会」は、ウシモツゴの保護と生息地の復元を目的とした官民横断組織で、当研究所のほか、岐阜・美濃生態系研究会、岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、関市、美濃市、岐阜県博物館が参加し、平成17年7月から活動を続けています。同会では親魚を交換することで、近親交配を最大限に避けようと考えています。今後、繁殖させたウシモツゴは関市、美濃市の適地に放流する予定です。

(本所 生態環境部 大原 健一)

平成21年度の職員の異動は次のとおりです。

新任者
 佐伯秀紀 所長 兼 生態環境部長
 森美津雄 部長研究員 兼 下呂支所長
 (前 水産課)
 中居 裕 資源増殖部長 (前 下呂支所)
 宮野幸子 下呂支所管理調整担当主任
 (前 大垣工業高校)

他機関への異動者

浅野 篤志 水産課長
 岩佐恵美子 下呂温泉病院主査

退職者

児玉文夫 前 所長
 斉藤 薫 前 資源増殖部長
 三浦 航 前 資源増殖部主任専門研究員